



# 干支学から見る卯年の傾向

暦作家・東京恵比寿 RC 井上 象英様

## 紹介者 高山 肇会員

井上先生は暦作家で、東京恵比寿 RC 会員です。東京商工会議所 女性会理事も務められています。今回で 12 回目の卓話になります。

## 基本星（記号）

現在、私たちが使用する年号は「平成」ですが、運氣や運勢などを知る為にはその年や月、そして日々に配当されている和暦（干支暦）を知る必要があります。それは「十干・十二支・九氣性」そして「五行」と「陰陽」のことです。

「殷」の時代から使用されている暦は「自然周期学」と称され、天体や宇宙の働きは神の領域でもありましたが、孔子も孟子もその達人とされていました。これらの星が様々な形式に則って組み合わせられて起きる自然のメカニズムが、何千年、何百年と経過することにより一定の条件が調った時に発生する天災、自然災害や事件、社会情勢など、私達人間の運氣やバイオリズムにも深く関わりを持つと云うことが解明されています。そこで最も暦に必要な記号が「干」と「支」と「星」であります。

干 かん —— 10種類（甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸）

支 し —— 12種類（子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥）

星 ほし —— 9種類（一白・二黒・三碧・四緑・五黄・六白・七赤・八白・九紫）

その組み合わせは大きく分別して「36」, 「60」, 「180」通り。

## 十干と五行の関係

「五行」は 木・火・土・金・水の五つの気（星）で構成されています。

陽（○） 甲（木のえ） 丙（火のえ） 戊（土のえ） 庚（金のえ） 壬（水のえ）

陰（●） 乙（木のと） 丁（火のと） 己（土のと） 辛（金のと） 癸（水のと）

「十干」は太陽の作用で10日に一巡する天の気であって、気候や精神面に影響します。

「五行」は地球自然界の構成要素で、水を万物の基礎としています。

## 十二支と月

丑 寅 卯 辰 巳 午 未 申  
酉 戌 亥 子

1月 2月 3月 4月 5月 6月  
7月 8月 9月 10月 11月 12月

「十二支」は季節の12ヶ月を表し、一年の周期現象で、12日に一巡する地の気です。農耕や経済面に影響します。また天干（幹）に対し地支（枝）としての役割があります。

この「干支学」は、生命の消長と収蔵に至る活動、変化の実体とそのプロセスを分類し説明したものであり、農耕社会におけるリーダーの心得でもありました。その内容は、自然の仕組みを背景に人生の在り方、暮らしの指針を表わしています。そして、人間が自然と共に暮すための「道の心」をこの干支で説明しています。

## 2023年（令和5年）

癸卯：四緑木気性（みずのと・う・しろくもつきせい）

癸（陰水）——「水の弟」属性は水。四季の終わりの冬。今日までの流れを正す「揆・

睽」に通じ開発の意。四方に突き出た矛の会意文字で一回転させる武器を指す。

卯（陰木）—— 四番目の地支。方位は真東（日の出の方向）。時刻は6時頃。季節は春。

本来卯は「萌・冒」（ぼう）で、萬物が大地を冒して誕生する様子を意味し、開門の貌を表している。つまり、陽気が盛んになって芽吹く現象は将来へ発展する期待を予測させる文字。

四緑木気性 —— 本来は東南に位置し、五行は常緑樹で古木の「木」、易では「風」を象徴し“伏入”の働きを指す。春の温かい風で吹き来るが、不安定な象意。

風は情報と人脈を象徴し、古木の根は地下のネットワークとも解釈するが、見えない為に「信頼関係」が重要。情報伝達（AI 関連含む）がカギになる。

態勢・・・「癸」は冬草が枯れて水路が歴然とする季節を表わすが、筋道を補修し、大事な課題を分かり易く整理することで次の世代に備えることを暗示しています。手偏を付けて「揆」（はかる）に、目偏で「睽」

（そむく）と同意義ですが、コンパスの様に、終始を見渡して計る（図る）様子の会意文字。そして、

「卯」は“天門が開く”意があり、旧態からの脱却、新しい地に新時代の芽が根付く周期と考えられます。もしかして政局も人心一新（解散選挙）の暗示に。筋

「歴史は繰り返す」ので、過去の失敗から学ぶことが必要かも知れません。

道を立てて修理固成し、野心をもった時局便乗型の人間が淘汰されるのではないか。それは国内へ軸足を置いた政策と経済成長のあり方かも知れない。統一地方選挙を得て万事が新しい活動に入ります。国政を預かる者は、外界の妨害や抵抗に堂々と対峙してほしい。

### 過去の歴史

\*天保14年（癸卯・四緑）：羽田、下田の奉行所設置。水野老中の罷免。堀田老中辞職。

\*明治12年（己卯・四緑）：教育令公布。靖國神社誕生。琉球が沖縄県に。侍補の廃止。

\*明治36年（癸卯・七赤）：8回総選挙。日露開戦御前会議。衆議院解散。大学の改称。

\*大正14年（乙卯・四緑）：12回総選挙。大正天皇即位礼。山東省から日本軍の撤退要求。

\*昭和8年（癸酉・四緑）：日本軍が華北侵略開始。国際連盟脱退。三陸地方の大地震。

\*昭和26年（辛卯・四緑）：サンフランシスコ講和条約。民間放送開始。三原山大噴火。

\*昭和38年（癸卯・一白）：30回総選挙。日ソ貿易協定調印。吉展ちゃん事件。鶴見列車事故。三池炭鉱のガス事故。第一回戦没者追悼集会。

\*昭和62年（丁卯・四緑）：大韓航空機爆破事件。日米半導体摩擦。世界的株価の大暴落。ブラックマンデー。竹下内閣誕生。

### —— 卯年や四緑年の傾向 ——

コロナ、戦争、異常気象、暗殺による政府内の混乱は、大きな社会問題になったが、国運は未来を見据えた陽気の発動に転換しそうです。

今日までの財政的困窮（負債の拡大）の結果からは逃げられません。しかし今年は、その失政の誤りを正して「再建」と「改革」のプロセスを開始する周期に入る。政財界がともに助け合うプランが合意に至る可能性があります。

つまり、今日ある困難な状況や問題の悪化を解決してゆく年と考えられます。

\*時代の転換期を迎え、この変化は進化のスタートとなる可能性大。

\*日本のトップ企業の底力が試される状況がある。

\*教育問題と医療体制の改革が急務に。

\*テクノロジー関連がビジネス世界の支配力となって行く。

\*金融や保険、証券業界に離合集散の風が吹き始める。

\*天候では、辰巳に暗剣：「辰」と「巳」は風の性質を持ちます。

これは短期間の内に天候が極端に変わり易く、風害を意味しています。

また、「癸」は陰の水気ですから湿気をもたらし、同時に降雨量も示唆。

昨年同様、地域によって洪水に見舞われる可能性があり、小さな地震の暗示もある。